

1. 木質バイオマス関連情報

■イーレックス(株)(東京)、ピナコミンパワーホールディングス(ベトナム)との石炭火力へのバイオマス混焼等に関する覚書(2022年9月調印)を更新するため、覚書の付録書を6月17日に締結。両社はピナコミンパワーの既設石炭火力発電所におけるバイオマス燃料の混焼技術の共同検討について2025年7月を有効期限とする覚書を締結していた。新たな付録書では当初の覚書の期間を2年間延長し、Na Duong(55MW×2)とCao Ngan(57MW×2)の2基の石炭火力発電所において、8月および9月に混焼試験を行うことに合意している【イーレックス(株):2025/06/20】

https://www.erec.co.jp/wp-content/uploads/2025/06/20250620_IR.pdf

■宮城県石巻市議会、6月20日に6月定例会本会議を開催。同市須江地区の山林に建設が計画されているG-Bio石巻須江発電所を巡り、市は工事期間中や稼働後に周辺道路を大型車両が通行する際の安全確保や渋滞の対応策について、事業者に提示を求めた昨年1月から1年半近く経過しても報告がないと説明。騒音や振動対策についても提案や相談はなく、市長は「住民の理解が得られていない中、事業を進めようとしていることは遺憾」と話した。発電所計画を進める合同会社G-Bio石巻須江(東京)はこれに対し、2024年7月、2025年4月に石巻市(道路課他)に報告を行っているとして自社サイトに掲載。同発電所はFIT認証を受けた液体バイオマス(植物油)燃料を使用するフィンランド・バルチラ社製発電機(発電出力102,750kW)を石巻市の高台にある遊休山林に設置するもので、液体燃料を使うものとしては国内最大規模。2028年運転開始予定。過去に液体燃料についての事業者の説明が二転三転したことがある上、近くに小学校や保育所があり、大気汚染や燃料用タンクローリーなどの交通量増大の懸念から、地元住民をはじめ環境保護団体等が繰り返し事業中止を求めている【河北新報:2025/06/21、合同会社G-Bio石巻須江:2025年、認定特定非営利活動法人FoE Japan:2022/04/21】

<https://kahoku.news/articles/20250621khn000008.html>

<https://g-bio-ishinomaki.com/ishinomaki-response/>

<https://foejapan.org/issue/20220421/7600/>

■レンゴー(株)(大阪)、木質チップなどの再生燃料確保に向け保管施設を新設。同社はCO₂削減に向け燃料転換を進めるため、茨城県坂東市にある利根川事業所において、2022年10月より発電用バイオマスボイラの稼働を開始。今回この利根川事業所の近郊にあり、2010年3月に廃校となった茨城県立岩井西高等学校のグラウンドに保管施設を新設し、バイオマスボイラが稼働していない時期でも燃料を安定的に購入できるようにした。脱炭素に向けて再生燃料の需要は高まる見込みで、燃料確保に先手を打つ【NIKKEI GX:2025/06/24、レンゴー(株):2022/07/01】

<https://www.nikkei.com/prime/gx/article/DGXZQOUF234VY0T20C25A5000000>

https://www.rengo.co.jp/news/2022/22_news_031.html

■バイオマスパワーテクノロジーズ(株)(三重)、令和7年度NEDOの「エネルギーの森」実証事業の一環として、「明日香村耕作放棄地活用対策 万葉の森を取り戻そう!植樹イベント」を奈良県明日香村内耕作放棄地で開催(6月17日)。木質バイオマス発電所の燃料となる原木の安定供給に向け、センダンやヤナギ類等の育苗~植林~搬出実証を紀伊半島エリア各地で行う事業で、2023年10月16日~2029年3月31日までが実施期間。育苗・植林~保育~伐採・搬出~輸送まで含めて12,000円/絶乾tのコストおよび8万本/年の生産体制を確立することを目指している。明日香村では2024年10月にも0.05ha植付しており、今回は地元の明日香村、聖徳中学校の生徒約35名、(株)長谷工コーポレーションが参加し、残りの0.45haの植付を実施した【PR TIMES:2025/06/24:NEDO再生可能エネルギー分野成果報告会2025資料:2025/07/16】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000016.000114663.html>

<https://re-ce2025.nedo.go.jp/proceedings/re/pdf/poster/1->

[3-6.pdf](#)

■西アフリカにあるコートジボワール共和国の独立系発電事業者（IPP）ソデン（SODEN/SOCIETE DES ENERGIES NOUVELLES）と、オランダの投資ファンド CFM（気候ファンドマネージャー/Climate Fund Managers）が6月3日、中南部のディボ市で、世界初となるカカオ廃棄物を燃料とする系統連系型発電所の建設に向け、300万ドルの開発資金提供契約を締結。同プロジェクトはCFMが運営するEU支援の気候投資家2号（CI2）ファンドを通じて資金調達し、2026年のファイナルクローズ時に最大3,500万ドルの出資となる見込み。発電所の規模は76MW。約60万t/年のカカオ殻、カカオポッド（ラグビーの球状のカカオの果実）、不良豆や、ゴムの木の残りがすを燃料とし、550GWh/年電力供給する。これにより30万t/年のCO₂排出削減と、3,900人を超える雇用創出、680万ユーロ/年の経済効果等が見込まれる。運転開始は2029年の予定【JETRO：2025/06/25】

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/06/6326a57e249165a3.html>

■山口県東部森林組合が整備した木質バイオマスチップ製造施設「錦バイオマスセンター」が完成。7月3日にオープニングセレモニーを開催。50mm以下の大きさの木質バイオマスチップを製造する「電気式自動破碎システム」を導入。県内有数の林業地域である岩国市錦町地内の林業の伐採現場で発生する木の枝や葉、根株など、これまで用材として利用されことなく山林内に放置されてきた「林地残渣」を主原料とする。25t/時の木質バイオマスチップを製造可能で、2万8,000t/年の製造を目指す。また、林地残渣を山林内から持ち出すことで、近年多発する集中豪雨災害など、気候変動リスクに対する平時からの備えにもする考え。総事業費は約9億円【山口県：2025/06/25、山口県東部森林組合：2025/6月、KRY NEWS NNN：2025/07/03】

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/press/309457.html>

<https://yeforest.org/pages/97/>

<https://news.ntv.co.jp/n/kry/category/society/kr90141cb8fff49e7b76beef42a70b19c>

■北海道、木造建築物及び木質バイオマスに係る相談窓口を開設。道産木材や木質バイオマスの更なる利活用が進むよう、「道

産木材をどんなルートで調達したらいいのか知りたい」「木質バイオマスを利用したいけれど、何から調べたらいいかわからない」などを相談することができる。開設期間は2025年6月9日（月）～2026年2月27日（金）まで【北海道：2025/06/25】
https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/02_riyousuisin/soudan.html

■経産省と国交省、再生航空燃料（SAF）推進に向けた官民協議会で、SAFの価格補助や利用の義務付けに関する議論に着手。海外では空港使用料や運賃にかかる税を原資に価格を補助する例がある。年内をめどに議論をとりまとめる【NIKKEI GX：2025/06/27】

<https://www.nikkei.com/prime/gx/article/DGXZQOUC265710W5A620C2000000>

■兵庫県、「エネルギー地産地消×里山再生ひょうごプロジェクト」が、環境省の「令和7年度地域脱炭素移行・再エネ推進交付金（重点対策加速化事業）」に採択されたと発表。計画期間は令和7年度～令和11年度。総事業費は29億952万円、交付限度額は14億8,952万円。事業計画では、北摂里山地域を皮切りに県内各地11カ所に木質バイオマスボイラを導入して伐採木活用の仕組みを構築し、地域内における経済循環につなげる、としている【兵庫県：2025/06/27】

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/juuten.html>

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/documents/jigyougaiyou.pdf>

■熊本県内で解体工事や廃棄物処理、バイオマス発電などを手掛ける（株）大晶が、FITを利用しないオフサイト型PPA（電力購入契約）スキームでのバイオマス発電を事業化へ。同事業は環境省脱炭素先行地域（第4回）の計画「阿蘇くまもと空港周辺地域 RE100 産業エリアの創造」に記載のある取り組みとして、熊本県地域脱炭素移行・再エネ推進補助金事業として行われる。プラントは（株）タクマ（兵庫）が受注。熊本県合志市に、地元で生産された木質チップを燃料とし、発電出力1,990kWの発電所を建設する。2027年7月引き渡し予定。発電した電気は地域エネルギー会社に販売し、主に阿蘇くまもと空港周辺地域の企業・施設にて利用される計画【メガソーラービジネス plus：2025/06/27、（株）タクマ：2025/06/09】

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/05115/?ST=msb>

<https://www.takuma.co.jp/news/2025/20250609.html>

■愛知県田原市と、再生可能エネルギーの地産地消を手がけるまち未来製作所（神奈川）が、「再生可能エネルギー電力の地産地消の推進に関する連携協定」を締結（6月13日）。同社は自社のシステムを活用し、田原市内の再エネ発電所から電力を買い取り、小売電気事業者を通じ供給を必要とする市内の需要家に販売、電力の地産地消を図る。また収益の一部を「地域活性化原資」として市内で行われる市民活動、インフラなどに使えるよう還元する。協定により、同社が行う再エネ発電事業者、需要家の募集などに田原市が支援するほか、市は広報活動や近隣自治体との協議、調整なども担う。同社によると、すでにバイオマス発電所1社と電力の取引契約が交わされているとのこと。同システムはこれまで国内45地域で活用されており、自治体との連携協定は6カ所目【東日新聞：2025/06/28】

<https://www.tonichi.net/news/index.php?id=116507>

■大阪ガス（株）（大阪）、バイオマス原料や工場の廃液からケミカルルーピング燃焼技術を用いて電力や水素、CO₂を1つのプラントで同時に生み出す実証実験開始へ。ケミカルルーピング燃焼技術は、バイオマスなどの燃料を空気中の酸素を用いずに酸化鉄などの金属酸化物中の酸素を使って燃焼させる技術。燃料との反応により一部の酸素を失った金属酸化物は、空気と反応して発電用蒸気に利用できる高温熱と、水と反応して水素を生成することが可能で、この工程で金属酸化物が燃料との反応前の状態に戻って再び一連の反応を繰り返せるようになることから、ケミカルルーピング燃焼と呼ばれている。大阪ガスは2020年度からNEDOの委託事業の中で（一財）カーボンフロンティア機構と共に反応に用いる金属酸化物の選定等の技術開発を進めてきた。今回採択されたNEDOの「カーボンリサイクル・次世代火力発電等技術開発／次世代火力発電基盤技術開発／CO₂分離・回収型ポリジェネレーションシステム技術開発」ではJFEエンジニアリング（株）（東京）と共に、2027年度までに300kW級実証機を大阪ガス西島事業所内（大阪）に建設。バイオマスや有機廃液などを用いた実証試験に取り組み、2030年代前半の実用化を目指す予定【日本経済新聞：2025/06/30、大阪ガス（株）：2025/06/27】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUF279NY0X20C25A600000/>

<https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2025/1788592>

[58387.html](#)

■6月30日午前2時頃、岡山県真庭市の真庭バイオマス集積基地第2工場の敷地内から出火。付近を通過したドライバーが通報した。屋外に積まれていたバイオマス発電用の燃料となる樹皮約9,800m³を燃やし、7月3日午前7時25分頃鎮火。けが人はいなかった。工場は真庭バイオマス発電所などの燃料になる木質チップを製造。運営する真庭木材事業協同組合（岡山）によると、火元は木質チップの原料となる樹皮をストックしている屋外の一角で、出火当時は無人だった。発電所の稼働に大きな影響はないという。出火原因については、真庭市消防本部と真庭署が調査中【Yahoo!ニュース：2025/06/30、津山朝日新聞：2025/07/05】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/a5c8ae23d8ae1f65b5d390c5d3786f938cc833bb>

<https://tsuyamaasahi.co.jp/%E3%83%90%E3%82%A4%E3%82%AA%E3%83%9E%E3%82%B9%E9%9B%86%E7%A9%8D%E5%A0%B4%E7%81%AB%E7%81%BD%E3%80%80%E3%81%91%E3%81%8C%E4%BA%BA%E3%81%AA%E3%81%8F%E9%8E%AE%E7%81%AB%E3%80%80%E6%97%A5%E9%96%93%E3%81%A7/>

■（株）タクマ（兵庫）、クリーンウッドエナジー（株）（青森）向け2MW級バイオマス発電プラントの設計・調達・試運転業務を受注したと発表。クリーンウッドエナジーは工藤林業（株）（青森）が2024年8月に設立。これに中部電力（株）（愛知）と（株）エネグリ（岩手）が出資するとともに「川内町バイオマス発電所」の開発に合意し、今年5月30日に3社、クリーンウッドエナジーおよびむつ市で「バイオマス発電事業に関する連携協定書」を締結。青森県むつ市川内町に、主に青森県産の未利用材を燃料とする木質専焼のバイオマス発電所を建設、運営する。出資比率は工藤林業が50%、中部電力が40%、エネグリが10%。発電所の出力は1,990kW、想定年間発電電力量は約1,450万kWh（一般家庭約5千世帯分に相当）、FIT制度を利用し売電する。2026年夏頃着工し、運転開始は2027年12月の予定【（株）タクマ：2025/07/03、中部電力（株）：2025/05/30】

<https://www.takuma.co.jp/news/2025/20250703.html>

https://www.chuden.co.jp/publicity/press/1216137_3273.html

■新潟県妙高市の道の駅あらい、バイオマス発電所など新たな施設を設けリニューアルへ。道の駅あらいは2000年にオーブ

ンし、2020 年度に国道 18 号の東側にエリアを広げ、翌年度に県内唯一の「防災道の駅」に登録されている。利用開始から今年で 24 年が経ち、施設の老朽化が進んでいることやコロナ禍で利用者が大幅に減少したことなどからリニューアルが検討されてきた。「道の駅あらい」リニューアル基本計画検討委員会」がまとめた基本構想によると、東側エリアを拡張してイベントなどに利用する多目的広場やバイオマス発電所など新しい施設を造る。平時は地元産材を使うバイオマス発電所、有時は停電時でもバイオマス発電施設で最低限発電し、四季彩館みょうこう周辺に安定した電力供給を行うとしている。「人」、「地域」、「安心」をつなぐの 3 つの役割を盛り込んだ基本構想が国に評価され、今年 4 月、国交省が次世代の道の駅の方向を示した「道の駅第 3 ステージ」のひとつに選定し、国から財政支援やアドバイスが受けられるように。今後はリニューアルの概要に関するパブリックコメントを行い、基本計画は今年度末にまとめる予定。2027 年度着工、2028 年度内の完成を目指す【上越妙高タウン情報：2025/07/03、上越タウンジャーナル：2025/07/20】

<https://joetsu.yukiguni.town/l-news/288154/>

<https://www.joetsutj.com/2025/07/20/193837>

■（一社）プラチナ構想ネットワーク、「ビジョン 2050 日本が輝く、森林循環経済」の実現に向けた森林資源フル活用事業モデルプランと推進方策・提言を取りまとめ、公表（7 月 7 日）。同モデルでは、250ha の森林から年間 10 万 m³ の丸太を伐採・調達し、ストックヤードで全量を受け入れた後、製材工場で粗ラミナとチップを製造。チップは成分分離、糖化発酵してエタノールを生産する。森林は 40 年サイクルで循環利用することを想定。この結果、CO₂排出は化石資源比で約 85%削減、全国の経済波及効果は建設投資で 30 兆円、生産効果で年間 9 兆円と試算され、特に地方圏における経済効果が顕著に見込まれるとしている【（一社）プラチナ構想ネットワーク：2025/07/07】

<https://platinum-network.jp/2025/07/07/13/02/>

■7 月 8 日午後 3 時前、岡山県真庭市の真庭森林組合月田集積基地で、作業中の職員から「木のチップを作る機械が燃えている」と 119 番通報。ボイラの燃料になる木質チップがくすぶり続け、火は約 7 時間後に消し止められたが木造平屋の作業棟 1 棟、約 230 m²が全焼。警察によると出火当時男性職員 2 人が作

業中で、1 人が消火活動の際に軽い火傷を負った。警察と消防が実況見分を行い出火の原因を調査中【RSK 山陽放送：2025/07/09】

<https://newsdig.tbs.co.jp/articles/rsk/2033518?display=1>

■（公財）ひろしま産業振興機構（広島）、中小企業成長プラン策定支援事業における評価優良企業に三蓉エンジニアリング（株）（広島）を認定。三蓉エンジニアリングの主要事業は、廃木材の再資源化技術、森林未利用材発電用チップの製造設備の設計・製作・据付・販売（破碎機・ドラムチップパー・粉碎機等）等。また廃木材破碎されたもの（木片チップ）の中に含まれる小石、金属片、砂、硬質プラスチックなどの異物を沈降除去し、高品質のチップを効率的に大量に生産することができる木片チップウォッシャー（水洗式異物除去装置）などを開発し、『広島県「ものづくり」オンリーワン企業』に認定されている。顧客ニーズを踏まえた設備ラインナップの充実、既存設備の使い勝手改善、新設備の開発等、失敗を恐れず新たな挑戦を続けようとしている取組みやビジネスモデルが評価された【PR TIMES：2025/07/09】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000096.000082865.html>

■再生可能エネルギー大手の（株）レノバ（東京）が木質バイオマスの大型新規開発を凍結へ。燃料が高いほか、政府補助の認定条件が厳しくなり、収益確保が難しいと判断。石油資源開発（株）（東京）も新規計画がないなど、バイオマスの拡大にブレーキがかかる【日本経済新聞：2025/07/11】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC247SP0U5A620C2000000/>

■マッチメーカーの（株）中外燐寸社（岡山）が、工場や事務所で使用する全エネルギーを脱炭素に転換。同社のマッチはぜんそく発作を誘発する可能性がある硫黄不使用なのが特徴で、特許も取得済み。マッチは木と紙から作られており、使用後は全てが土に還る「環境に優しい製品」であると考え、5 年ほど前に工場の屋根を修繕する際に「環境に優しい製品をつくる会社として、この機会に太陽光パネルを設置しよう」との発想から再生可能エネルギーの利活用に取組むように。その後蓄電池や電気自動車の導入、J-クレジットの登録や CO₂フリー電力の契約など進めてきた流れの中で、マッチ製造過程で頭葉を乾

燥させる工程に使用してきた、重油 4,000～6,000ℓ を消費する重油ボイラの更新にあたり、木質バイオマスボイラ導入に踏み切った。ボイラはオーストリアの ETA 社製(定格出力 200kW)。設置は極東開発工業(株)(大阪)が実施し、2025 年 1 月より稼働。燃料には地域の木質チップの他、これまで廃棄していた不良品の軸木も使用。導入したボイラは乾燥工程だけでなく、それまでガスや灯油を熱源としていた工場内と事務所内の給湯にも利用。バイオマスボイラ導入により同社で使用しているエネルギーは全て再生可能エネルギーで賄われていることとなり、「脱炭素」を達成した【山陽新聞：2025/07/14、極東開発工業(株)：2025/06/11、2025/04/23、OSR No.665：2025/07/23】

<https://www.sanyonews.jp/article/1759082>

https://www.kyokuto.com/wp-content/uploads/%E4%B8%AD%E5%A4%96%E7%87%90%E5%AF%B8%E7%A4%BE%E6%A7%98_%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%BF%E3%83%93%E3%83%A5%E3%83%BC.pdf

<https://www.kyokuto.com/wp-content/uploads/%E4%B8%AD%E5%A4%96%E7%87%90%E5%AF%B8%E7%A4%BE%E3%83%97%E3%83%AC%E3%82%B9%E3%83%AA%E3%83%BC%E3%82%B9.pdf>

■地球温暖化による海面上昇で国土が将来水没する恐れが指摘される南太平洋のツバルで、オーストラリアへの特別移住ビザの抽選に応募した国民が人口の過半数の 5 千人以上に。移住プログラムは、2 国間で昨年 8 月に発効した条約「ファレピリ連合」に基づくもの。今回の新たな移住プログラムでは、オーストラリア人と同等の就学、就労、社会保障の機会を与えられるため応募が殺到。ニュージーランドなど国外に在住するツバル人も応募しているとみられる。応募は今年 6 月 16 日～7 月 18 日まで実施。ツバルの 2025 年の国連推定人口は 9,400 人。関係者によると、7 月 11 日時点で 1,466 世帯 5,157 人が応募。今回の応募殺到はツバル政府の当初想定を上回ったもよう【東京新聞：2025/07/15、神戸新聞 NEXT：2025/06/30】

<https://www.tokyo-np.co.jp/article/421096>

<https://www.kobe->

[np.co.jp/news/zenkoku/compact/202506/0019170133.shtml](https://www.kobe-np.co.jp/news/zenkoku/compact/202506/0019170133.shtml)

■静岡県西伊豆町が稼働を目指す木質バイオマス発電事業について、町議会が 7 月 15 日の臨時会で、施設整備工事請負契約締結案を賛成少数(賛成 4、反対 5)で否決。西伊豆町は、2024 年 7 月 31 日に AGC ミネラル(株)(東京)および(株)トビムシ(東京)と「(株)西伊豆・森のエネルギー」設立の調印式を実施。町長が代表取締役、二社の代表取締役が西伊豆・森のエネルギーの取締役に就任。地域内で生産される低質材を木質チップに加工し、発電する事業を 2026 年 4 月に本格稼働させる予定としていた。バイオマス発電施設は町内の宇久須、仁科に設置。排熱は宇久須ではチップの乾燥に、仁科では温泉の加温に使うとし、総事業費は 3 億 7,568 万 8,000 円(工事費 3 億 7,000 万円、FIT 負担金 550 万円、借地料 18 万 8,000 円)。今年 3 月 4 日～14 日まで開催された同町の定例議会ではこの総事業費を「0 円」に減額するという一般会計予算修正案が出され、この時は賛成 3、反対 6 の結果に。6 月には建設予定地である町内の建設候補地の宇久須地区で説明会を開催するなどしていたが、7 月 10 日、公害や採算性への懸念から同町の住民が事業の停止を求め、請願書と町民から集めた 517 人分の署名を同町議会議長に提出。町長は FIT 価格が来年少がることなどを理由に事業を中止する意向を示した【静岡新聞 DIGITAL：2025/07/16、(株)トビムシ：2024/07/31、静岡新聞 DIGITAL:2024/08/01、伊豆新聞デジタル：2025/06/21、静岡新聞 DIGITAL：2025/07/10】

<https://news.at-s.com/article/1762668>

<https://tobimushi.co.jp/event/3622>

<https://news.at-s.com/article/1524921>

<https://digitalizu-np.co.jp/news/politics/93596>

<https://news.at-s.com/article/1759437>

<https://news.at-s.com/article/1759093>

※OSR：バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

2. ペレット関連情報

■北海道下川町の森林バイオマス熱電併給施設「北の森グリーンエネルギー(株)」が 6 月 22 日に開所式を開催。2024 年 3 月

に操業休止した北海道バイオマスエネルギー(株)(北海道)から事業譲渡を受け、同年 6 月 27 日に三洋貿易(株)(東京)が

33.4%、下川運輸（株）（北海道）が33.4%、大日本ダイヤコンサルタント（株）（東京）が33.2%出資して北の森グリーンエナジーを設立。施設は製造能力4t/hの木質ペレット工場を併設しており、国産の未利用材を活用して製造した木質ペレットを燃料としている。三洋貿易が代理店を務めるブルクハルト社（ドイツ）製発電設備（発電出力165kW、熱出力260kW）を11基備え、合計出力は発電が1,815kW、熱（温水）が2,860kW。ペレット製造、発電とも2024年11月より開始。年間発電量は、一般家庭約4,000世帯分に相当する約1,320万kWhを見込む。熱は木質ペレットの原料の乾燥に利用し、発電した電力はFITに基づき売電する【三洋貿易（株）：2025/06/25、メガソーラービジネス plus：2025/06/30】

<https://www.sanyo-trading.co.jp/2025/06/25/kitanomori-opening/>

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/05120/?ST=msb>

■Jパワー（電源開発 [株]）（東京）竹原火力発電所（広島）、今年度から竹原火力新1号機（60万kW）向けに木質バイオマス由来の粉じんを集めて木質ペレットに再成形する設備を導入。粉じん環境下での作業をなくし、火災や爆発の発生リスクを低減させる。四足歩行ロボットを巡視点検で適用するための検証も進めており、現場の作業環境の改善に努めている。竹原火力発電所新1号機は2020年6月30日に営業運転を開始。高効率な超々臨界圧（USC）微粉炭火力となり、CO₂排出量を約2割削減できるだけでなく、バイオマス燃料の混焼率で10%を目指し、CO₂排出量のさらなる削減を目指してきた。燃料とする木質ペレットは輸入、国産の両方を使用【電気新聞：2025/07/08、Jパワー資料：2024年】

<https://www.denkishimbun.com/archives/388873>

<https://www.jpowers.co.jp/sustainability/environment/disclosure/pdf/lifecycleghg2024.pdf>

■大阪ガス（株）（大阪）100%子会社であるDaigasガスアンドパワーソリューション（株）（大阪、以下「DGPSJ」）が出資する袖ヶ浦バイオマス発電（株）（大阪）が7月8日、千葉県袖ヶ浦市にある袖ヶ浦バイオマス発電所の営業運転を開始。東南アジア産木質ペレットを燃料とし、発電容量は7.5万kW、年間発電量は5.23億kWhの見込みでバイオマス専焼発電所としては国内最大級。発電した電力はFITに基づき売電する。Daigas

グループにとってバイオマス専焼発電所の営業運転開始は7ヶ所目であり、Daigasグループが単独で開発・運営する発電所としては2ヶ所目。同発電所では2023年1月、燃料中継基地の貯蔵サイロで自己発熱・蓄熱の進行による温度上昇が原因で火災が発生。貯蔵期間に基づく時間管理（サイロ外に搬出・冷却し蓄熱防止）や窒素発生装置を常設するなど、再発防止策を徹底した上で商用運転にこぎつけた【大阪ガス（株）：2025/07/08、メガソーラービジネス plus：2025/07/11】

https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2025/1789395_58387.html

<https://project.nikkeibp.co.jp/ms/atcl/19/news/00001/05147/?ST=msb>

■福島パルムシー（株）（福島）が福島県葛尾村の東部産業団地に整備を進めてきた木質ペレットの生産拠点「葛尾バイオステーション」が完成。7月9日に竣工式を開催。約1万4,900㎡の敷地内に工場7棟と事務所棟などを整備。一般的にブラックペレットは木質チップをペレットに加工してから炭化させるが、同社は木質チップを炭化してからペレットに加工することで、一般的な製造法よりブラックペレットの密度が高まり燃焼効率も高まるとしている。この製造法を採用する工場は国内初。当面は山形県米沢市などから木材を調達し、今後、放射能の汚染度が下がったら工場周辺にある葛尾村の木材を活用する。約3万t/年のブラックペレットを製造する見込みで、仲介業者を通して新地町やいわき市などの火力発電所に販売する。同社はPKSや木質ペレットを扱う専門商社PALM SEA（株）（宮城）の子会社で、2016年11月1日に葛尾村に設立。当初は2022年の生産拠点の完成を目指していたが、新型コロナウイルス禍やウクライナ情勢による原材料費高騰の影響で整備が遅れた。葛尾バイオステーションは8月1日より操業開始予定【福島民友：2025/07/10、日本経済新聞：2025/07/09、福島民報：2025/07/10、PALM SEA（株）】

<https://www.minyu->

[net.com/news/detail/2025071008271838326](https://www.minyu-net.com/news/detail/2025071008271838326)

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC094HN0Z00C25A700000/>

<https://www.minpo.jp/news/moredetail/20250710125529>

<http://www.palmsea.co.jp/index.html>

■(株)レノバ(東京)、連結子会社である合同会社御前崎港バイオマスエナジー(静岡)が保有する御前崎港バイオマス発電所(静岡)について、6月29日、運転中にボイラ付帯設備から漏水が発生したため運転を停止したと発表。点検の結果ボイラ付帯設備における不具合が確認されたため、9月中(予定)の運転再開に向けて補修工事を進めることを決定。同発電所は木質ペレットとPKSを燃料とし、設備容量75.0MW、想定年間発電量約53,000万kWh(一般家庭約17万世帯の年間使用電力量に相当)の大型バイオマス専焼発電所。過去にボイラやタービンの調整を理由に稼働延期を何度か行ったが、今年1月より稼働を開始していた【(株)レノバ、日本経済新聞:2025/07/11】
https://www.renovainc.com/news/business/pdf/20250711_01_PRESS.pdf
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC1132W0R10C25A7000000/>

■欧州議会、森林破壊防止デューデリジェンス規則の実施規則撤回を求める動議を採択(7月9日)。EUは森林減少防止を目的とし、2023年6月9日EU域内で流通する特定の品目の生産において森林減少を引き起こしていないことの確認(森林デューデリジェンス)等を義務化する規則を公表。当初2024年12月30日からの適用開始が予定されていたが、欧州委員会が1年間の適用延期を提案・合意し、2025年12月30日か

ら適用されることになっていた。Bioenergy Europeの専門家は、「この規制は木材や木製品等を幅広く対象にしているため、木質ペレットの生産者や取引業者にも影響を及ぼす」と話す。欧州委員会はEUDRに基づく実施規則を今年5月に採択。森林破壊リスクのレベル分けを行うベンチマークシステムを構築した上で、EU内外の国を「高リスク」あるいは「低リスク」に分類したが、高リスク国の指定はベラルーシ、北朝鮮、ミャンマー、ロシアのみだったことから現実のリスクを反映していないとして批判を浴びていた。動議は、実施規則の撤回を求めるとともに、最新データに基づくようベンチマークシステムを見直すこと、また現行の国別だけでなく地域別のレベル分けを認めることなどを求めている。18のEU加盟国は連名で、EUDRはさらなる簡素化が必要であることから、適用開始を再度延期すべきとする書簡を欧州委員会に送っており、欧州委員会の今後の対応に注目が集まっている【JETRO:2025/07/14、農水省:2025/07/02、Bioenergy Europe:2025/02/19】

<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/07/e023916a68481741.html>

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/export/EUDR.html>

<https://enplus-pellets.eu/2025/02/19/ileana-repaci-from-bioenergy-europe-on-what-you-have-to-know-about-eudr/>

3. イベント情報(国内)

◎:木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

石川県内

◎(一社)日本ペレットストーブ工業会 木質ペレットストーブ省エネ基準機器認定記念シンポジウム「脱炭素時代の住宅と温熱環境 ~省エネ基準に木質ペレットストーブ掲載の意義と課題~」

<https://ias.unu.edu/jp/admissions/certificate/unu-global-seminars.html#overview>

2025年8月7日(木)

国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)
/Zoomオンライン

<https://pstove.jp/post-517/>

■NPO法人市民電力連絡会「4ヶ月で学ぶ「再エネ発電所のつくり方」講座

第1回:2025年8月25日(月)Zoom

第2回:2025年9月29日(月)Zoom

第3回:2025年10月27日(月)Zoom

第4回:2025年11月30日(日)現地開催(神奈川県厚木市)

第5回:卒業式 オンライン

<https://peoplespowernetwork.jimdofree.com/event/>

■国連大学「第41回国連大学グローバル・セミナー『気候危機とともに生きる:能登、金沢、白山から学ぶレジリエンスと持続可能な社会づくり』」

2025年8月10日(日)~13日(水)

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク第 231 回研究会
「森林資源活用による持続的な『暮らし、地域再構築』」

2025 年 8 月 26 日（火）

地球環境パートナーシッププラザ（東京都渋谷区）/Zoom によるオンライン

<https://www.npobin.net/index.html>

■気候変動・省エネルギー行動会議「第 12 回 気候変動・省エネルギー行動会議 BECC JAPAN 2025」

2025 年 8 月 27 日（水）

東京大学生産技術研究所 An 棟（東京都目黒区）

<https://seeb.jp/eventcontents/5612>

■（一社）日本エネルギー学会、他 「2025 年度バイオマス夏の学校」

2025 年 9 月 1 日（月）

長野県内の木質バイオマス関連施設

<https://www.jie.or.jp/publics/index/987/>

■埼玉県機構変動適応センター 「第 23 回環境問題の現況と将来を展望するセミナー『異常気象その実態と対応～暑熱環境を中心に～』」

2025 年 9 月 3 日（水）

埼玉会館 2F ラウンジまたはオンライン（Zoom ミーティング）

https://saiplat.pref.saitama.lg.jp/post/information/20250528/250903_kankyotenbo/

■RX Japan（株）第 5 回 脱炭素経営 EXPO 【秋展】

2025 年 9 月 17 日（水）～19 日（金）

幕張メッセ（千葉県千葉市）

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

■（一社）日本木工機械工業会「日本木工機械展 2025」

2025 年 10 月 2 日（木）～4 日（土）

ポートメッセなごや 第 1 展示館、屋外（愛知県名古屋市）

<https://mokkiten.com/>

■（一社）林業機械化協会、他「第 48 回全国育樹祭開催記念行事 みやぎ 2025 森林・林業・環境機械展示実演会」

2025 年 10 月 5 日（日）～6 日（月）

宮城県仙台塩釜港（石巻港区）雲雀野地区

<https://www.rinkikyo.or.jp/news/view/173>

◎長野市「ながの森林・林業フェア 元気森々長野の森で遊ぶ」

2025 年 10 月 18 日（土）

茶臼山自然植物園（長野県長野市篠ノ井）

<https://mori-fair.net/>

■RX Japan（株）第 5 回 脱炭素経営 EXPO 【関西展】

2025 年 11 月 19 日（水）～ 21 日（金）

インテックス大阪（大阪府大阪市）

<https://www.decarbonization-expo.jp/hub/ja-jp/about/dcm.html>

■CMT「DeCarbon Tokyo 2025」

2025 年 12 月 3 日～4 日

ヒルトン東京（東京都新宿区）

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=251219&>

■日報ビジネス（株）「2026NEW 環境展／2026 地球温暖化防止展」

2026 年 5 月 20 日（水）～22 日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

※WEB は後日公表予定

◎ペレットクラブ「Bioenergy 2026」

2026 年 5 月 20 日（水）～22 日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）NEW 環境展内

4. イベント情報（海外）

■National Bioenergy Associations Roundtable Meeting No. 3 - Policy and regulations

2025 年 8 月 6 日（水）

オンライン（Zoom）

<https://www.worldbioenergy.org/news/921/47/National-Bioenergy-Associations-Roundtable/>

◎Safe Wood Pellet Storage: Preventing, Detecting and Managing

Self-Heating Incidents

2025年9月3日(水)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://pellet.org/events/safe-wood-pellet-storage-preventing-detecting-and-managing-self-heating-incident/>

■Renewable Energy Markets 2025

2025年9月3日(水)～5日(金)

テキサス州ヒューストン(USA)

<https://www.renewableenergymarkets.com/us/home>

■Gastech 2025

2025年9月9日(火)～12日(金)

ミラノ(イタリア)

<https://www.gastechevent.com/>

◎European Biomass to Power 2025

2025年9月10日(水)～11日(木)

ハンブルグ(ドイツ)

<https://marketing.acieunet/acton/media/6204/biomass-to-power-2025>

■2025 North American Biochar Conference & Expo

2025年9月15日(月)～18日(木)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://www.biocharconference.com/>

■North American SAF Conference & Expo

2025年9月22日(月)～24日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<https://saf.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pagelid=Home>

◎The Wood Pellet Association of Canada Conference

2025年9月23日(火)～24日(水)

ハリファクス(カナダ)

<https://events.annexbusinessmedia.com/event/wood-pellet-association-of-canada-conference/>

■7th Biogas PowerON

2025年9月24日(水)～25日(木)

ハンブルグ(ドイツ)

<https://fortesmedia.com/biogas-poweron-2025,4,en,2,1,109.html>

■Welcome to Svebio's Fuel Market Day

2025年9月25日(木)

ストックホルム(スウェーデン) / オンライン

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebios-fuel-market-day/>

■Wood Energy Conference 2025

2025年9月30日(火)～10月1日(水)

ヴュルツブルク(ドイツ)

<https://www.fachkongress-holzenergie.de/>

■2025 Value of Biogas West

2025年10月6日(月)～8日(水)

アルバータ州カルガリー(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2025west/>

■Biogas Intelligence+

2025年10月7日(火)～9日(木)

シュトゥットガルト(ドイツ)

<https://ibbk-biogas.com/schedule/biogas-intelligence-plus/>

■7th European Conference Biomass PowerON 2025

2025年10月8日(水)～9日(木)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://fortesmedia.com/biomass-poweron-2025,4,en,2,1,110.html>

■European Biomethane Week

2025年10月14日(火)～15日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.europeanbiogas.eu/european-biomethane-week-2025/>

■All Energy Australia 2025

2025年10月29日(水)～30日(木)

メルボルン(オーストラリア)

<https://www.all-energy.com.au/en-gb.html>

■7th European Conference Future of Biofuels 2025

2025年10月29日(水)～30日(木)

ヨーテボリ(スウェーデン)

<https://fortesmedia.com/future-of-biofuels-2025,4,en,2,1,111.html#register>

■Ecomondo 2025

2025年11月4日(火)～7日(金)

リミニ(イタリア)

https://cloud.ecomondo.com/visit-2025-eng?utm_source=banner&utm_medium=referral&utm_campaign=bioenergy_insight

■European Bioenergy Future 2025

2025年11月5日(水)～6日(木)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://bioenergyeurope.org/events/>

■USIPA 2025 Conference

2025年11月9日(日)～11日(火)

フロリダ州マイアミ(USA)

<https://theusipa.org/2025-conference>

■UNFCCC COP30

2025年11月10日(月)～21日(金)

ベレン(ブラジル)

<https://unfccc.int/process-and-meetings/conferences/un-climate-change-conference-belem-november-2025/the-road-to-belem>

◎9th Biomass & Bio Energy Asia

2025年11月18日(火)～20日(木)

ホーチミン市(ベトナム)

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=251114&>

■Stora biokraft- och värmekonferensen

2025年11月19日(水)～20日(木)

ベクショー(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/stora-biokraft-och-varmekonferensen/>

■Nordic Flame Days 2025

2025年11月26日(水)～27日(木)

コペンハーゲン(デンマーク)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-flame-days-2025/>

■Industry CCUS 2025 Conference

2025年11月26日(水)～27日(木)

アムステルダム(オランダ)

<https://fortesmedia.com/industry-ccus-2025,4,en,2,1,112.html>

■10th Biogas Congress

2025年12月16日(火)～17日(水)

ワルシャワ(ポーランド)

<https://magazynbiomasa.pl/biogas-congress/>

◎Nordic Pellets Conference 2026

2026年2月3日(火)～4日(水)

ヨーテボリ(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/nordic-pellets-conference-2026/>

■bio 360

2026年2月11日(水)～12日(木)

ナント(フランス)

<https://www.bio360expo.com/Page/1259/program-2026>

■HOLZ-HANDWERK 2026

2026年3月24日(火)～27日(金)

ニュルンベルク(ドイツ)

<https://www.holz-handwerk.de/en>

■2026 International Biomass Conference & Expo

2026年3月31日(火)～4月2日(木)

テネシー州ナッシュビル (USA)

<https://2025->

[bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home](https://www.bbiconferences.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home)

■Svebios årsstämma och vårmöteskonferens 2026

2026年4月15日(水)

ストックホルム(スウェーデン)

<https://www.svebio.se/en/evenemang/svebios-arsstamma-och-varmoteskonferens-2026/>

■Bio 360 Africa

2026年6月17日(水)～18日(木)

ヨハネスブルグ(南アフリカ共和国)

<https://www.bio360-africa.com/lang/en>

5. 2025年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報(都道府県順)

※締切や公募の条件等の詳細は各自治体にお問い合わせください。

◇: ストーブ

◆: ストーブ・ボイラ共

<https://www.shinshu0ene.jp/support/new.html>

◇長野県「令和7年度信州健康ゼロエネ住宅助成金(リフォームタイプ)」

<https://www.shinshu0ene.jp/support/renovation.html>

【北海道】

◇網走市「網走市住環境改善資金補助制度」

<https://www.city.abashiri.hokkaido.jp/soshiki/19/1514.html>

◇小布施町「ペレットストーブ導入推進事業補助金」

<https://www.town.obuse.nagano.jp/docs/313081.html>

◇美幌町「木質ペレットストーブ購入補助金」

<https://www.town.bihoro.hokkaido.jp/page/2226.html>

◇軽井沢町「令和7年度木質バイオマス循環利用普及促進事業(ペレットストーブ設置事業)補助金」

<https://www.town.karuizawa.lg.jp/page/1645.html>

【岩手県】

◇宮古市「宮古市木質バイオマスストーブ設置事業補助金制度」

<https://www.city.miyako.iwate.jp/gyosei/soshiki/norin/2/1/2/2105.html>

◇木祖村「安心エコ住宅リフォーム補助金」

https://www.vill.kiso.nagano.jp/kurashi_joho/hojokin/hozyoseidoiedukuri.html?d=202311

【秋田県】

◇羽後町「ペレットストーブ導入促進補助金」

https://www.town.ugo.lg.jp/life/detail.html?id=1768&category_id=132

◆佐久市「令和7年度佐久市木質バイオマス熱利用設備導入事業補助金」

https://www.city.saku.nagano.jp/kankyo_shizen/kankyo_kogai/ondankataisaku/hojo/pelletstoveetc/h27mokushitsubio.html

【山梨県】

◇甲府市「クリーンエネルギー機器普及助成金制度」

<https://www.city.kofu.yamanashi.jp/kankyohozen/machi/kankyo/shisaku/20130328.html>

◇辰野町「ペレットストーブ購入補助金」

https://www.town.tatsuno.lg.jp/gyosei/soshiki/sangyoshinkoka/shigoto_sangyo/4/951.html

【長野県】

◇長野県「令和7年度信州健康ゼロエネ住宅助成金(新築タイプ)」

◇豊丘村「豊丘村ペレットストーブ等購入事業補助金」

<https://www.vill.nagano-toyooka.lg.jp/09sumai/2024-0611-1057-7.html>

◇中野市「ペレットストーブ等購入助成金」

<https://www.city.nakano.nagano.jp/docs/2025062300019/>

◇松川村「松川村ペレットストーブ購入補助金」

<https://www.vill.matsukawa.nagano.jp/life/?content=750>

◇松本市「松本市ペレットストーブ購入事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/74/3181.html>

【兵庫県】

◇猪名川町「ペレットストーブ等購入助成補助金」

<https://www.town.inagawa.lg.jp/soshiki/1042/gyomu/14/2/1334.html>

◆新温泉町「木質バイオマス利用支援事業」

https://www.town.shinonsen.hyogo.jp/page/?mode=detail&page_id=5398e66e9a1feee0083f64d5af705be3

◆兵庫県「令和7年度木質バイオマスボイラー導入補助事業」

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk19/baiomasu.html>

※対象は事業者、地方公共団体等

【熊本県】

◇小国町「小国町木材製品利用住宅建築奨励助成金」

<https://www.town.oguni.yamagata.jp/soshiki/seibi/1589.html>

6. 公募等情報（締切順）

■（一社）低炭素投資促進機構「令和6年度補正再生可能エネルギー導入拡大・分散型エネルギーリソース導入支援等事業費補助金」

二次公募：2025年7月1日（火）～8月15日（金）

<https://www.teitanso.or.jp/smamedata/>

■（公社）環境生活文化機構「2025年度持続可能な社会づくり活動表彰」募集のご案内

応募締切 2025年8月31日（日）

<https://www.elco.or.jp/pages/29/>

■栃木県「気候変動対策ビジネス等創出支援補助金」

第2次募集：2025年7月22日（火）～9月12日（金）

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/taisaku-business->

[hozyokin.html](https://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/taisaku-business-hozyokin.html)

■（一財）環境イノベーション情報機構「令和6年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（工場・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業（SHIFT事業） 省CO2型設備更新支援C（中小企業事業）」（六次公募）

公募期間 2025年4月15日（火）～9月末日（予定）

https://www.eic.or.jp/eic/topics/2024/shift_r06/6th/

■農水省「令和7年度バイオマス産業都市構想の提案を募集します」

募集期間 2025年6月20日（金）～10月31日（金）

https://www.maff.go.jp/j/press/kanbo/r_energy/250620.html

■広島県「令和7年度広島県創エネ・省エネ設備導入促進補助金の公募のお知らせ（幼稚園・保育所・認定こども園等対象）」

受付期間 2025年4月7日（月）～12月19日（金）

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/eco/04setubihojokin.html>

■広島県呉市「呉市脱炭素化設備等導入補助金（設備導入補助）」

申請受付期間 2025年5月27日（火）～12月25日（木）

<https://www.city.kure.lg.jp/soshiki/40/cn-shien004.html>

■兵庫県高砂市「高砂市中小事業者脱炭素化設備等導入促進補助金」

受付期間 2025年5月1日（月）～12月26日（金）

<https://www.city.takasago.lg.jp/soshikikarasagasu/kankyoseisakuka/4/hojyokinn/10321.html>

■（一社）低炭素投資促進機構「令和7年度温暖化対策促進事業費補助金（トランジション・ファイナンス推進事業）」

公募期間 2025年6月13日（金）～2026年1月30日（金）

<https://www.teitanso.or.jp/tf7/>

■富山県南砺市「木質ペレット燃料購入者支援補助金」

<https://www.city.nanto.toyama.jp/soshiki/ecovillage/2/1/761.html>

■長野県松本市「松本市再生可能エネルギー導入支援事業補助金」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/51/4407.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸木質バイオマス暖房機等設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■高知県「高知県林業・木材産業改善資金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/doc/2024041500181/>

■北海道「林業・木材産業改善資金」

https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/05_rinkin/k002.html

■滋賀県甲賀市「再生可能エネルギー地域導入促進事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/6567.htm>

■滋賀県甲賀市「甲賀市公共の施設等再生可能エネルギー導入事業補助金」

<https://www.city.koka.lg.jp/7406.htm>

■富山県「脱炭素社会推進資金（再生可能エネルギー利用促進枠）」

<https://www.pref.toyama.jp/1300/sangyou/shoukoukensetsu/shoukougyou/kj00012293/kj00012293-008-01.html>

■富山県「富山県中小企業脱炭素社会推進資金環境施設整備枠融資制度」

<https://www.pref.toyama.jp/1705/kurashi/kankyoushizen/kankyoushizen/kj00006264.html>

■NEDO「2025年度第2回「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援事業」に係る公募について【予告】

2025年9月上旬から1カ月間公募予定

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100436.html